

やさしい世界を

出雲市立第一中学校 2年 シャブナムオニラ

テレビを見ていると、よく差別についてのニュースが流れてきます。差別といっても色々な種類がありますが、その中でも私が一番気になるのは、人種差別です。結構前にニュースになった、アメリカで起こった黒人差別や、中国でのウイグル人差別が心に残っています。アメリカでの黒人差別では、白人警官がフロイドさんを殺害するという事件が起こりました。テレビでフロイドさんの首を警官がひざで絞める映像が流れてきたり、その事件に対するコメントなどが流れてきたりしました。フロイドさんが首を絞められている時、とても苦しそうで、

「息ができない。助けて。」

と助けを求めていたのに、周りの人たちは助けようとしていませんでした。その映像を見て、とても胸が締め付けられるようでした。もしかしたら周りの人たちの中にも助けたいと思っていた人もたくさんいたかもしれません。でも、フロイドさんの首を絞めていたのが警官だということで、周りの人たちは怖くて逆らえなかったのではないかと思います。私も、もしその場にいたら助けることはきっとできなかったと思います。でも、この事件のことは私自身忘れられないし、その場にいた人たちも助けられなかったことが今でも心のどこかにずっと引っかかっているのではないのでしょうか。

私も、フロイドさんと同じように、外国人なので、彼の気持ちがよく分かります。きつとつらかったでしょう。そして悔しかったでしょう。そう考えると、本当に自分まで苦しくなります。

肌が黒くてよく悩んでいる人もいるけど、私はその肌の色も個性だと思います。もちろん肌の白い人も個性です。そういった個性を世界中で認め合うことは、本当に大切だと思います。誰かが自分と違うからといっていじめたり悪口を言ったりすることはあってはなりません。もしもあったとしたら、見て見ぬふりをせず、ちゃんと止めなければならないと思います。

アメリカだけではなく、中国でもウイグル人に対しての差別が問題となっています。どうしてウイグル人というだけで差別されないといけないのか疑問に思います。今、グローバル化が進む世界で、今もまだ差別があるということが信じられません。民族や人種など関係なく協力し合えば、もっとよい世界がつかれると思います。

私はまだ小さかった頃、他人と違うことに対してとても嫌だと思っていました。どこかに出かけるだけで、家族や私の顔が、日本人とは違うということで周りからの視線をよく集めることがありました。それがとても気になり、恥ずかしいと思っていました。小学校の高学年くらいになると、私がみんなより肌が黒いせいか、まるで私のことを汚いもののように扱う人も何人か出てきました。例えば、私の机を

触ったら、

「うわっ。汚っ!!」

などと言ったり、授業中の席移動で、私の席に座りたくなさそうだったりするので。そういうことがよくあり、私はそれに対して日々傷ついていました。それが原因で、今も少し怯えることがあります。

けれど、友達にそのことを相談すると、

「えっ？全く汚くないよ。そんなこと考えなくていいから。」

と言ってくれました。とても嬉しかったし励まされました。その後も学校での嫌がらせはおさまりませんでした。親や担任の先生に相談したり、私も、相手と関わらないようにしたりすることで減っていきました。

今は、私を汚いもののように扱う人は一人もいません。私が誰かに

「あれ取ってよ。」

と言うと、きちんと取ってくれます。当たり前のことですが、当たり前に人と接するということは、とても大切なことだと思います。私の周りにいる人たちのおかげで、今は周りとは違う自分を自分自身が認め、肌の色も個性の一つだと思えます。周りと同じように接してくれる環境にめぐまれたことで、このように感じるようになるようになったと思います。

差別で苦しんでいる全ての人が、私と同じような環境で生活できることを強く願っています。そのためには、一人一人がお互いの個性を認め、協力し合うことが必要だと思います。私は、見た目で判断せず、周りの人にやさしく接することを心がけています。暴言をなくしたり、かげ口を止めたりすることも、自分にできる一つの方法だと思っています。

誰もが当たり前に、誰に対しても傷つく言葉を言わず、嫌な思いをさせないやさしい世界。そうした環境をつくれるように、私にできることを続けたいと思っています。